東京臨海病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

本研修プログラムの特色として、江戸川区唯一の総合病院であり、東京都災害拠点病院、東京都がん診療連携協力病院として複数の手術診療科を抱えており、緊急・重症症例を含めた様々な症例を経験することが可能である。また、当院にはペインクリニック外来もあり、ペインクリニックに関する基礎知識や基本手技も学ぶことが可能である。がん診療連携協力病院として緩和ケアも麻酔科医師を中心にチームを組んで診療を行っており、慢性疼痛・癌性疼痛の診療に参加することも可能である。地域医療に貢献できるよう、茨城県にある日立製作所ひたちなか総合病院とも連携を取っており、麻酔科医として幅広い知識を得ることが可能と考えている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半約2年間は，専門研修基幹施設で研修を行う．

- 3年目以降に日本医科大学付属病院、日本医科大学武蔵小杉病院、日本医科大学千葉北総病院、榊原記念病院においてそれぞれ3か月～半年程度の研修を行い，集中治療を含む様々な症例を経験する．
- 地域医療の維持のため，2年目後半の3ヶ月は専門研修連携施設である日立製作所ひたちなか総合病院で研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する．

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	東京臨海病院	東京臨海病院、日立製作所ひたちなか総合病院	榊原記念病院、日本医科大学付属病院（集中治療、手術室）	日本医科大学武蔵小杉病院、日本医科大学千葉北総病院、東京臨海病院

週間予定表

東京臨海病院ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	手術室	手術室	休み	休み
麻酔科待期	待期			待期			

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

私立学校振興・共済事業団　東京臨海病院

研修プログラム統括責任者：赤田信二

専門研修指導医：赤田信二（麻酔、集中治療）

佐藤千代（ペインクリニック、緩和）

竹田寛恵（ペインクリニック、緩和）

中川真志（麻酔、ペインクリニック）

臨床研修病院施設番号：031040

特徴：災害拠点病院であるため、複数手術科が存在し，重症症例を含めた症例を経験することが可能である。ペインクリニック、緩和医療も行っており、麻酔医関連業務に関しても学ぶことが可能である。

② 専門研修連携施設

日本医科大学付属病院

研修プログラム統括責任者：石川　真士（麻酔一般，心臓麻酔，無痛分娩）

専門研修指導医：

間瀬　大司（麻酔，集中治療，産科麻酔）
源田　雄紀（麻酔，集中治療）
岩崎　雅江（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）
稲垣　喜三（麻酔，ペインクリニック，漢方）
並里　大（麻酔）
山本　真記子（麻酔，心臓麻酔，基礎研究）
水野　友喜（麻酔，心臓麻酔）
富張　雅宏（心臓麻酔）
右田　妹亜（心臓麻酔，無痛分娩）
金子　美穂（麻酔，無痛分娩）
井野　佑佳（麻酔，緩和ケア，基礎研究）　他

臨床研修病院施設番号：030183

特徴：麻酔一般のほか，外科系集中治療室へのローテートを必須としており，術中の麻酔管理だけではなく，術後管理を含めた周術期管理を学んで頂ける．その他にも，緩和ケア，ペインクリニック外来のローテートも可能である．緊急手術症例，重症症例を指導医のもと数多く経験することが可能である．女性医師のキャリア支援にも力を入れている．

麻酔科管理症例数（2025年度）　8,044症例

日本医科大学武蔵小杉病院　（神奈川県川崎市）

研修プログラム統括責任者：杉田　慎二

専門研修指導医：杉田　慎二（麻酔、集中治療）

川瀬　創（麻酔、緩和ケア）
今井　裕隆（麻酔、集中治療）
細井　章広（麻酔、産科麻酔（無痛分娩））
山岡　卓司（麻酔、ペインクリニック、小児麻酔）
相澤　武明（麻酔、神経ブロック）

臨床研修病院施設番号：030275
認定病院番号：276
特徴：2021年9月に新病院になった大学病院で、周産期母子医療センター、救命救急センター、災害拠点病院です。重症症例を含めた幅広い症例を経験することが可能です。小児症例、帝王切開術症例を豊富に経験することが可能です。無痛分娩を行っており、産科麻酔をより学ぶことができます。ペインクリニックや緩和ケアの外来もあり、手術室でインターベンショナル治療を行える環境となっています。
※ ペインクリニックは2026年5月現在、院内対応のみとなっています。
麻酔科管理症例数（2025年度） 3,711症例

	症例数
小児（6歳未満）の麻酔	364症例
帝王切開術の麻酔	440症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	69症例
胸部外科手術の麻酔	96 症例
脳神経外科手術の麻酔	104症例

日本医科大学千葉北総病院

研修プログラム統括責任者：金　徹
専門研修指導医：
金　徹　　（麻酔一般、ペインクリニック、緩和ケア）
神谷一郎　（麻酔一般、ペインクリニック）
古川亜理沙（麻酔一般、ペインクリニック、緩和ケア）
中室貴代　（麻酔一般、無痛分娩）
宮崎　有　（麻酔一般、ペインクリニック、緩和ケア）
山﨑陽祐　（麻酔一般、ペインクリニック）

臨床研修病院施設番号：030164
特徴：当院は、地域医療を担う側面がある一方、ドクターヘリを擁する広域をカバーする救急救命センターをもつ、多発外傷など緊急度の高いハイリスク症例の麻酔を経験することのできる病院である。がん診療連携拠点病院でもあり、悪性腫瘍に対する手術の麻酔を経験し、緩和ケアを勉強することができる。希望があれば本院である日本医科大学付属病院にて外科系集中治療の研修が可能であり、集中治療・ペインクリニック・緩和ケアの専門医あるいは認定医の資格を取ることが可能である。ここは、目標に向かって自由に学ぶことのできる開放的な雰囲気の医局と自負している。
麻酔科管理症例数（2025年度） 4032 症例

株式会社日立製作所ひたちなか総合病院

研修実施責任者：岡部格

専門研修指導医：岡部格（麻酔，緩和ケア，ペインクリニック）

他1名

臨床研修病院施設番号：030788

特徴：地域医療支援病院，がん診療連携拠点病院，災害拠点病院である．複数の手術診療科が存在し，重症症例を含めた幅広い症例を経験することが可能である．

公益財団法人　榊原記念財団　附属　榊原記念病院

研修実施責任者：清水　淳（麻酔一般、心臓麻酔）

専門研修指導医：一瀬　麻紀　（麻酔一般、救急医療）

古市　結富子　（麻酔一般、心臓麻酔、集中治療）

認定病院番号　第1441番

特徴：急性期医療を中心とした，あらゆる年齢層を対象とした循環器疾患の専門施設である．小児先天性心疾患を含む心臓血管手術全般および最先端のカテーテル治療の麻酔管理、術後管理を中心とした集中治療管理を豊富に経験することができる．また他科・他職種間の垣根が低く，カンファランスや実地臨床を通じて幅広い知識を得ることができる．地域医療支援病院である．

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2026年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院 麻酔科部長 赤田信二

〒134-0086

東京都江戸川区臨海町1-4-2

TEL 03-5605-8811

E-mail akada@ nms.ac.jp

Website http://www.tokyorinkai.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA 1 〜2 度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA3 度の患者の周術期管理や ASA 1 〜2 度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適

性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告

できる.

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院として日立製作所ひたちなか総合病院が連携施設として入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．